

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

ガバナンスの本質は正論を言い合うこと 伊藤 邦雄 (一橋大学大学院特任教授)

1. 目標を達成できなかったとき、トップはミドルをしかり飛ばすのではなく、未達に終わった原因をきちんと議論すべきだ。目標と実績のギャップを埋めるためにどうすべきかを、トップは自問しなければならない。それは経営の自律ともいえる。一方、ボードメンバーに社外取締役を入れるのが他律だ。外部の目という意味で他律も必要だが、本来、トップが自問自答するプロセスが経営に求められる。
2. 単に利益を上げろとか、製造現場にコストを下げろと一方的に指示するのではなく、トップがやるべきは目標を達成できるような環境を作ること。現場のマネジメントを担うミドルを「明るく追い詰める」というやり方だ。いい環境を整えてもらって目標が達成できなければ、言い訳する側としてもぼつが悪い。だが、実際はトップがミドルを暗く追い詰めていることが多い。威圧的に叱責すると、怒られた側は本当に追い詰められてしまう。
3. とにかくポジティブに追い詰める。ウチのビジョンは何だ、会社の使命は何なんだと、正論を吐いて議論すればいい。変革を進めようとするトップの思いが伝わればミドルの意識も変わっていく。自律の意識はミドルにとっても重要だ。ガバナンスがきちんと利いている企業には学習する風土があり、ミドルは自分のスキルをきちんと磨いている。学びを怠るところにガバナンスはないということだ。

(参考:「週刊東洋経済」2016年8月27日号)

新規成長分野

3 倍に拡大するスポーツ産業

1. 2020 年、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、スポーツ産業が成長産業として注目を集めている。事実、「日本再興戦略 2016」は、2015 年の 5.5 兆円から 2025 年に 15 兆円へスポーツ産業の市場規模を拡大させる三つの具体的な施策を挙げている。
2. 一つ目は、スタジアム・アリーナ改革だ。重要に視点は、スタジアムなどの収益力強化で、維持管理費の掛かるハコモノから、スポーツを中核に、公共施設や商業施設など、さまざまな役割を持たせることで、総合的な収益力を高める仕掛けに転換することを目指す。二つ目は、スポーツ関連団体の経営力強化や、新ビジネス創出だ。例えば大学におけるスポーツ経営学部の設置なども期待される。三つ目として、特に重要と考えられるスポーツ分野の産業競争力の強化が挙げられる。「スポーツ×健康」「スポーツ×食」など、他分野との融合だ。

(参考:「週刊ダイヤモンド」:2016年9月10日号)

街の活性化策

公民館日本一

1. 広島県大竹市玖波地区。カキの養殖で盛んな瀬戸内海沿いの人口 4500 人ほどの小じんまりした町である。そんな町の南側にある古ぼけた公民館に昨年、突如としてスポットライトが当たった。昨年春のこと、文部科学省が毎年行っている優良公民館表彰で「日本一」に選ばれたのだ。さらに秋には、広島県が開いた地方創出のチャレンジ・フォーラムで、「まち部門」の優秀事例として表彰された。
2. 玖波では、公民館に住民が集まって来る「仕掛け」が出来上がっているのだ。その仕掛けを作り上げた人物が河内ひとみさん。公民館のたったひとりの職員である。10 年前から働き始めたが、5 年前に「学びのカフェ」という講座を月 1 回のペースで始めた。「ダサイ、暗い、野暮ったい公民館を、明るく、オシャレな空間にイメージチェンジしようと思いました」と河内さんは言う。

(参考:「WEOGE」2016年10月号)

古典に学ぶ

人を治める者の最高の条件は仁

(解説) 慈悲は王者にその王冠よりもよく似合うとか、慈悲は王笏おうしやくをふるって行う支配以上であるとかをことばに表わすには、世界の他の人々と同様、おそらく私たちがシェクスピアを必要としたことだろうが、それを感じるにはシェクスピアは全く必要なかった。孔子も孟子も、いくたびとなくくりかえして、人を治める者の最高の必要条件は仁であることを語った。

(参考:佐藤全弘(訳)新渡戸稲造著「武士道」:教文館)